

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和6年3月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、3月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 目次

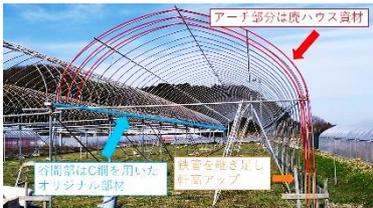
## 内容

目次	1
3月のトピックス5選	3
ブドウの産地一体となった技術向上を目指して	3
廃材を再利用した低コストモデルハウスが完成	3
上浮穴高校とのコラボで雑穀を利用した新商品を開発	4
再編復旧園地で植栽開始	4
西宇和スマート農業推進協議会実績検討会開催	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
さといも親芋を利用した種芋増殖を開始	6
集落農業法人連携の取組みを学ぶ	6
「西条地区青年農業者のつどい」の開催を支援	7
アスパラの廃棄部位を活用したお茶「アスパラ茶ん」を商品化	7
新規就農者が土作りについて学ぶ	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
うま茶の更なる販路拡大と認知度向上につなげる次年度の活動計画を協議	8
「ビバーナム・ティナス」のせん定講習会	9
■東予地方局 産地戦略推進室	9
春作メロンの生育調査を開始	9
■今治支局 地域農業育成室	9
きゅうり栽培希望者説明会の開催	10
「今治地域鳥獣害対策ネットワーク会議」を初開催	10
JA 指導員対象「紅プリンセス」せん定講習会	11
地元中学生がオリーブ苗の定植作業を体験	11
しまなみ食材を使ったメニュー開発と提供開始	12
■中予地方局 地域農業育成室	12
新規就農者が選果作業の省力化を目指しAI 選果機を導入	12
青年農業者プロジェクト活動発表会の開催を支援	13
なすの天敵昆虫を利用した環境にやさしい防除技術を確立	13
ユウカリ産地振興に向けた安定生産技術について協議	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
「七折小梅産地再興支援事業」の取組成果を報告	14
沖縄の「田芋」を参考に「媛かぐや」の新規加工需要について検討	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
若手女性農業者の交流会を開催	15
■中予地方局 産地戦略推進室	15
「甘平」の実証試験結果について意見交換	16

パクチーの周年安定出荷を目指して .....	16
■南予地方局 地域農業育成 .....	16
高級和菓子用びわの無袋栽培実証を開始 .....	17
みかん学校開校に向けて研修会を開催 .....	17
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班 .....	17
野菜産地の担い手確保に向けた新たな研修体系を提案 .....	18
キウイ花粉の産地拡大に向けて低コスト省力栽培技術の実証ほを設置！ .....	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班 .....	18
県かんきつオリジナル品種のせん定講習会 .....	19
スイス向け「河内晩柑」を出荷 .....	19
つるむらさきのセンチュウ害対策実証開始 .....	20
■八幡浜支局 地域農業育成室 .....	20
若い力で地域の課題を解決 .....	20
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班 .....	20
大洲・内子いきいきネットワークの活動支援 .....	21
大洲きゅうり農家が IPM に取り組む .....	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班 .....	21
西予市農業を支える若き力、青年農業者組織が 1 年間の活動成果を報告 .....	22
■八幡浜支局 産地戦略推進室 .....	22
保水材を用いて青ねぎの収量改善を検討 .....	22
高校生発案！「媛小春」を使ったマーマレード .....	23

### 3月のトピックス5選

標 題	ブドウの産地一体となった技術向上を目指して		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月7日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	管内ブドウ農家（33人）	連携機関	JA（えひめ未来、東予園芸、周桑）、丹原もぎたて倶楽部	
普及指導内容	<p>○近年、管内で生産者が増加しているブドウについて、産地としての技術向上を目的に、当室では初のブドウの栽培講習会を開催した。</p> <p>○果樹研究センターから「シャインマスカット」の基本管理方法及び着色向上技術について説明した。</p> <p>○当室から「シャインマスカット」の支梗利用について、実証調査結果の報告を行った。</p>			
結果と今後	<p>○質疑応答では、仕立て方や促成栽培について生産者から質問があった。</p> <p>○講習会後には個別で質問する生産者が相次いだ。</p> <p>○講習会後のアンケートでは、今後も講習会の開催を求める声が多く、摘粒方法や有望品種などについて講習会をして欲しいとの声があった。</p>			
		<p>「シャインマスカット」の基本管理方法等を学ぶ</p>		

標 題	廃材を再利用した低コストモデルハウスが完成		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月21日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	かんきつ生産者（3人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○今治市上朝倉地区の水田転換園で廃棄された野菜ハウスの部材を再利用した軒高の高い果樹栽培用ハウスを建設。谷間部では安価なC鋼で代用するなどして、従来の約半分の資材費で建設することができた。</p> <p>○また、同園では「愛媛果試第28号」の大苗の定植を実施予定。事前に根域の拡大や土壌の排水性を高めるため、すき床層の破壊等の徹底した土壌改良も併せて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○同地区では、生産者の高齢化等に伴い通年で一定の労働力を必要とする野菜栽培を縮小し、「愛媛果試第28号」への転換を検討する生産者が多いことから、モデルハウスの建設で得た知見や、廃材を利用する場合の建設方法等を動画でマニュアル化する。また、次年度も廃材を利用し間口や屋根の高さが異なるハウスを建設することから、ハウスの大きさ等に合わせた管理技術等を指導する。</p>			
				
苗木の定植方法を指導		廃資材を活用してハウス建設		低コストハウスが完成

標 題	上浮穴高校とのコラボで雑穀を利用した新商品を を開発		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年3月19日	場所	JA松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議構 成員等(11人)	連携 機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導 内容	<p>○高齢者の生きがいがづくりと荒廃農地対策、地域食材の伝承を目的として実施している地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」の推進会議を開催し、今年度の活動報告と次年度計画について協議した。</p> <p>○今年度から県と連携し、雑穀の商品開発に取り組んでいる上浮穴高校生が考案した「クマ式きび<sup>2</sup>ナン」を試食し、その商品性等について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○上浮穴高校は、4月7日に久万高原町商店街で開催される軽トラ市「くまくるまるしえ」で一般販売を予定しており、当班では、町内の雑穀を使用した新商品の販売を支援することとしている。</p> <p>○町内に伝わる郷土料理の伝承や新たな活用方法を探索しながら、雑穀の生産拡大を図り、地域農業の活性化に努める。</p>			
				<p>左：推進会議で今年度の活動を報告</p> <p>右：上浮穴高校生が考案した「クマ式きび<sup>2</sup>ナン」</p> <p>【クマ式きび<sup>2</sup>ナン】 地とうきびの粉を使ったナン生地を鉄板で焼き「クーマカレー」をトッピングした商品</p>

標 題	再編復旧園地で植栽開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月11日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	再編復旧園地の担い手農家	連携 機関	JAえひめ南、宇和島市、農村整備課	
普及指導 内容	<p>○西日本豪雨災害で甚大な被害を受けた玉津地区・白浦工区の再編復旧園地で3園地の工事が完成し、苗木の植栽が始まった。</p> <p>○当園地は有機物が非常に少ない状況であったため、4種類の土壌改良資材を試験的に投入し、早期成園化に向け効果的な資材の実証に取り組んでいる。</p> <p>○当日は、知事による生産者への激励をはじめ、宇和島市長など関係機関代表者が記念植樹を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今後、早期成園化に向け効果的な土壌改良資材の選定や、「紅プリンセス」の導入推進を図るとともに、苗木の生育促進に欠かせない施肥、かん水等の指導を徹底することとしている。</p>			
				<p>左：知事による記念植樹</p> <p>右：苗木植栽状況</p>

標 題	西宇和スマート農業推進協議会実績検討会開催	機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年3月13日	場所	西宇和農協本店（八幡浜市江戸岡）
指導対象	西宇和スマート農業推進協議会構成 員（13人）	連携 機関	農林水産研究所
普及指導 内容	<p>○当室ほか関係機関で組織する西宇和スマート農業推進協議会が、実績検討会を開催した。各担当者が「気象ロボットによる施肥・かん水制御技術の実証」（以下、「気象ロボット」）、「ドローンを活用した防除の有効性実証」（以下、「ドローン」）等の結果を報告した。</p> <p>○このうち「気象ロボット」では、当室担当者が、マルドリ栽培園で気象ロボットの土壌水分指示値と果実肥大や糖度変化の相関を調べたところ、かん水開始の判断の目安となる数値を概ね特定したこと等を報告した。また、「ドローン」では、黒点病防除について実証し、手がけ散布と比較して防除効果に明らかな差はなかったこと等を報告した。</p>		
結果と今後	<p>○実証結果を営農指導員や農家に情報共有したことで、栽培技術の導入や改良に生かされることが期待される。</p> <p>○これらの実証は来年度も引き続き実施し、技術の普及に努めるとともにスマート農業の進展に必要な不可欠なデータの蓄積を進めていく。</p>		
 <p>開 会</p>		 <p>質疑応答</p>	

## えひめ農業NOW

標 題	さといも親芋を利用した種芋増殖を開始		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月13日、15日	場所	新居浜市・西条市 種芋増殖モデル農家施設	
指導対象	種芋増殖モデル農家（4人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	<p>○栽培面積の拡大と乾腐病や疫病の発生への対策として、生産者各自が実践可能な種芋増殖について説明した。</p> <p>○親芋からセル苗を作出する種芋生産技術について、種芋増殖モデル農家を通じて地域へ波及することで種苗更新を図るため、各モデル農家へ親芋伏せ込み作業に関する実演指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○4人の生産者（新居浜市1、西条市3）が、さといもの種芋増殖に必要な、親芋への処理を施し、ハウス内にて約1か月間、各自管理を行うこととした。</p> <p>○約1か月後、伸長した副芽についてセルトレイへの移植を行う予定。</p>			
				<p>左 親芋の頂芽等を除去する種芋増殖モデル農家</p> <p>右 バーミキュライト上に置床された親芋</p>

標 題	集落農業法人連携の取組みを学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月7日	場所	JA 周桑丹原支所	
指導対象	周桑集団長会 集落農業法人代表（24人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○県内で初めて2階建て方式による集落農業法人の連携に取り組んでいる（株）あぐりサポートいわねが、人材育成や園芸品目の導入について説明した。</p> <p>○当室からは集落組織の担い手やパート従業員の確保について、フリーペーパーの活用やスマホでの求人サービスを紹介、また労働補完の仕組みを検討することを提案した。</p> <p>○また、さといも収穫機の導入による省力化と機械化を示し、法人経営におけるさといも栽培導入と面積拡大を促した。</p>			
結果と今後	<p>○組織連携の取組みや人材募集の方法等を紹介したが、担い手が少ない集落農業法人からの反応は薄く、今後も啓発を継続して実践活動へとつなげる。</p> <p>○さといも栽培に取り組んでいない法人は、高齢化や人手不足などの理由があるため、今後も省力化や労働補完の支援策を提示していく。</p>			
		<p style="text-align: center;">二階建て連携法人について説明する代表</p>		

標 題	「西条地区青年農業者のつどい」の開催を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月5日	場所	西条市地域創生センター	
指導対象	西条地区青年農業者協議会員（14人）	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○西条地区青年農業者連絡協議会員が一堂に集い、実践班活動や視察研修会等の報告を通じて、相互の研鑽を図ることを目的とした標記会の開催を支援した。</p> <p>○1年間の振り返りとして各実践班から今年度の活動内容と、先進地視察研修や鳥獣害対策活動等計7課題の報告が行われた。</p> <p>○報告会后には、各実践班員で意見交換や、次年度の実践活動について打ち合わせを行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「他の会員の活動内容を知れてよかった」「今後は参加者を増やし、より活発な活動にしていきたい」との声が上がった。</p> <p>○当室は、今後も実践班活動を始めたとした青年農業者の活動を支援する。</p>			
 <p>発表に聞き入る参加者</p>		 <p>意見交換</p>		<p><b>【実践班】</b> 当協議会では経営作物に応じて、作物・野菜・果樹・花き・畜産の5つの組織を結成し、プロジェクト活動や先進地視察を行っている。</p>

標 題	アスパラの廃棄部位を活用したお茶「アスパラ茶ん」を商品化		機関名	東予局地域農業育成室
年月日	令和6年3月	場所	西条市内	
指導対象	青年農業者（1人）	連携機関	愛媛県立西条農業高等学校、JA周桑、農政課	
普及指導内容	<p>○西条市の青年農業者「FRUITS WALK」の豊田果歩氏が、令和4年度に「青年農林漁業者ステップアップ活動支援事業」、令和5年度に「愛媛県6次産業化支援チャレンジ総合支援事業」を活用し、アスパラガスの廃棄部分を活用したお茶「アスパラ茶ん」を商品化した。</p> <p>○商品開発には、西条農業高等学校やJA周桑とも連携し、乾燥・焙煎等の試作・検討を重ねてきた。</p> <p>○成分分析の結果、「アスパラ茶ん」には、アスパラギン酸の他に、妊婦が積極的に摂りたい栄養素である「葉酸」も含まれていたことから、豊田氏は「商品を販売するだけでなく、赤ちゃん食堂の開設やアスパラ茶を使ったレシピの考案などにより、子育て期のママとの輪を広げる活動にもつなげたい」と話した。</p>			
結果と今後	<p>○「アスパラ茶ん」は、4月中旬、JA周桑の産直市「周ちゃん広場」で販売を予定しており、各種イベント等での販売も行っていく。また、今後、お茶としての利用だけでなく、「アスパラ粉末」としての利用についても検討する。</p> <p>○当室では、豊田氏の「アスパラ茶ん」の販売促進活動や販路拡大を支援するとともに、引き続き新規就農者の6次化の取り組みについても支援していく。</p>			
				<p>左 商品化に取り組んだ豊田果歩氏（「FRUITS WALK」は豊田氏の屋号）</p> <p>右 「アスパラ茶ん」</p>

標 題	新規就農者が土作りについて学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月26日	場所	西条市丹原町	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（17人）	連携機関	東予家畜保健衛生所	
普及指導内容	<p>○当室では、新規就農者等に対して、農業経営に必要な基礎知識や基本技術の習得を図る「就農初期農業者研修会」を開催している。受講生たちはグループ LINE を立ち上げ、次回研修会までの間、情報提供や会員同士の情報交換により交流を図っている。</p> <p>○今回、四国中央市の認定新規就農者 眞鍋一慶氏を招き、「竹パウダー」の取組みについての講習会開催を支援した。</p> <p>○眞鍋氏は、耕作放棄地の竹を伐採し、竹パウダー機でパウダー化する活動を行っており、自身のほ場に表面施用してニンニク他 20 種以上の野菜を栽培している。</p> <p>○他にも管内の畜産農家から、豚糞堆肥の無償提供の話があり、東予家畜保健衛生所の職員より、豚糞堆肥の利用や土作りの講習を受けた後、受講生の園地に設置している鳥獣対策の複合柵の見学、しきみの園地見学も行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「研修会のない期間も継続した情報提供がありがたい」「竹パウダーには以前から興味があり、いただいたサンプルを試してみたい」「肥料等高騰の中、新規就農者にとって堆肥の無償提供の話は嬉しかった」などの声が聞けた。</p> <p>○当室では、引き続き関係機関と連携しながら、新規就農者の育成活動に取り組む。</p>			
				<p>左 眞鍋一慶氏の講習 右 竹パウダーの実物を紹介</p>

標 題	うま茶の更なる販路拡大と認知度向上につなげる次年度の活動計画を協議		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年3月25日	場所	新宮公民館（四国中央市新宮町）	
指導対象	うま茶振興協議会（8人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○うま茶振興協議会（会長：協製茶場専務）の令和5年度総会の開催を支援した。</p> <p>○令和5年度は新たな取組として、地元出身のインフルエンサー（ゆりまん）を起用した産地イベントの情報発信もあり、県内外からの集客増と関連商品売上額が前年比105%となるなどの成果を報告した。</p> <p>○また、四国中央市産のお茶（うま茶）と観光産業（道の駅 霧の森）の茶菓子とコラボした全国各地への出張販売を提案、協議した。</p>			
結果と今後	<p>○令和6年度は、四国中央市産のお茶（うま茶）の生産や産地に携わる人に焦点を当てた情報発信を行うとともに、消費者志向の多様化を捉え、道の駅の茶菓子とコラボした出張販売を新たに計画するなど、更なる集客と購買力アップに繋がる活動を展開していくことを申し合わせた。</p> <p>○当班は、今後も本協議会活動をうま茶振興の核と捉え、販促や PR 活動に加えて、産地の維持発展に欠かせない労働力確保対策も加味しながら、産地の活性化に向けた活動展開を支援していく。</p>			
				<p>うま茶の更なる販路拡大と認知度向上に向けた対策を協議</p>

標 題	「ビバーナム・ティナス」のせん定講習会		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月15日	場所	西条市丹原	
指導対象	ビバーナム・ティナス栽培農家 (10人)	連携 機関	JA 周桑	
普及指導 内容	<p>○JA周桑管内のビバーナム・ティナスの栽培農家を対象にせん定講習会を実施した。</p> <p>○講習会では、高収量の実績のある農家が高品質な切枝を多く確保するための結果母枝の残し方や切り取り位置などを解説しながらせん定を実演した。</p> <p>○当室からは、今年調査した、摘蕾の強さや環状はく皮による切枝の伸長速度の結果報告、せん定後の施肥やかん水のタイミングなどを詳しく指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「今まで主枝を残すだけのせん定をしていたが、垂主枝も残したせん定を試みたい」など増収に期待できるせん定に関心を持っていた。</p> <p>○これから栽培を始める新規栽培者も参加しており、改めて定植方法や栽培管理について指導していく。</p>			



左 せん定の実演  
右 せん定後の樹形

標 題	春作メロンの生育調査を開始		機関名	東予産地戦略推進室
年月日	令和6年3月12日	場所	西条市	
指導対象	春作メロン栽培者（2人）	連携 機関	JA えひめ未来	
普及指導 内容	<p>○当室は、春作メロンの収量・品質を向上させるため、裂果を軽減するための水管理方法の把握を目的に実証ほの設置を行った。</p> <p>○3月5日定植の2戸の農家ほ場に土壤水分センサーを設置し、かん水による土壤水分の推移と、開花・着果時期と果実肥大、裂果の発生状況等について調査を行う。</p>			
結果と今後	<p>○今後、土壤水分の推移と生育調査結果とを分析し、春作での適正な土壤水分管理の方法を把握し、収穫後に講習会で指導する予定。</p>			



左 JA、農家と設置打合せ  
右 設置したセンサー

標 題	きゅうり栽培希望者説明会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年3月16日	場所	JA おちいまばり 営農経済事業部 会議室	
指導対象	きゅうり栽培希望者（5人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○6年産の新規きゅうり生産者を確保するため、栽培希望者説明会を開催した。</p> <p>○産地紹介や品種の特性、年間作業スケジュールを説明し、定植作業後の仕立てから摘果・摘葉方法など重要な作業ポイントについて映像等を活用して指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者のうち4人は約20aで栽培の意思を固めており、今後は、重点的にほ場巡回して栽培管理を指導し、育成していく。</p> <p>○JA おちいまばりでは、新規栽培者に初期費用負担軽減のため苗や資材を助成する。</p>			
 <p>映像で栽培ポイントを指導</p>				

標 題	「今治地域鳥獣害対策ネットワーク会議」を初開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年3月7日	場所	今治市民会館	
指導対象	鳥獣害対策に取り組む7集落代表、今治猟友会、えひめ地域鳥獣管理専門員（計18人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○今まで集落単位で取り組んできた鳥獣害対策だが、地域で連携して取り組む必要との考えから「今治地域鳥獣害対策ネットワーク会議」を開催した。</p> <p>○会議では、各集落での取組状況や被害状況の共有、えひめ地域鳥獣管理専門員取組み状況の報告、岡山理科大学獣医学部から高周波発生装置を用いた鳥獣忌避効果の有効性についての講演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○「令和5年度は年内のサル被害は少なかったが、年明けから出始めた。集団で動いているように思われる」「イノシシ、サル、シカ、ウサギ、鳥と多様な獣種が出没している」と情報提供があり、高周波発生装置の関心が高く同大学と連携して実証試験に取り組む。</p> <p>○今後もネットワークの充実を図り、地域ぐるみの鳥獣害対策の実施に努める。</p>			
 <p>各集落代表者による情報共有</p>  <p>研究発表に真剣に聞き入る参加者</p>				

標 題	JA 指導員対象「紅プリンセス」せん定講習会		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年3月18日	場所	大西・菊間 現地ほ場	
指導対象	JA 営農指導員（7人）、園主（4人） 地域農業育成室（3人）	連携機関	JA おちいまぱり	
普及指導内容	<p>○「紅プリンセス」の指導技術の平準化のため、果樹研究センター安部主任研究員を招き、栽培指導で注意する点について説明を受けた。</p> <p>○大西2カ所、菊間1カ所の園地を巡回し、若木の内に骨格を作っておくことが必要で、夏秋梢も利用して横枝を確保する等、品種特性に応じたせん定方法を学んだ。</p>			
結果と今後	○「紅プリンセス」については明確な技術が確立されておらず、今後も JA 等と連携しながら実証試験等による栽培技術確立や栽培管理の徹底指導に努めていく。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <span style="margin: 0 10px;">→</span>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>せん定方法を学ぶ指導員</span> <span>せん定前</span> <span>せん定後</span> </div>				

標 題	地元中学生がオリーブ苗の定植作業を体験		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月11日	場所	NPO 法人アクションアイランドの農園（今治市吉海）	
指導対象	大島中学校2年生（30人）	連携機関	今治市立大島中学校 NPO 法人アクションアイランド	
普及指導内容	<p>○愛媛県初のオリーブ産地づくりに取り組むNPO 法人アクションアイランドと連携し、将来の担い手候補である地元中学生を対象にしたオリーブの定植作業体験会を開催した。</p> <p>○苗選び、肥料の準備、植え穴掘り、施肥、定植、水やりの作業を実演しながら指導し、完成した園地には学生手作りの看板を設置した。</p>			
結果と今後	<p>○対象である2年生は、これまでに挿し木や収穫作業を体験している。今回一連の主要な作業を体験したことでオリーブ栽培の楽しさと大変さを学ぶことができた。</p> <p>○当室では、引き続きオリーブ栽培の担い手確保につながる生産者の活動を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>開会式</span> <span>作業内容の説明</span> <span>終了後の記念撮影</span> </div>				

標 題	しまなみ食材を使ったメニュー開発と提供開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月6日	場所	しまなみフレンチフィレール	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員 (31人)	連携 機関	(株) フードスタイル	
普及指導 内容	<p>○移住就農者等が中心となって結成した地元農産加工者のグループ「しまなみみんなのディッシュ」の魅力発信と取引拡大を目的として、地元飲食店でのメニュー化を推進した結果、大三島の「しまなみフレンチフィレール」でのランチメニューの提供が決定し、3月6日から提供を開始した。</p> <p>○食材には、イタリア野菜類や金ゴマ、レモンパウダー等の多数の商品が採用され、前菜からデザートまでグループの食材が楽しめるメニューとなった。</p> <p>○新メニュー等の情報は、グループのポータルサイト「しまなみみんなのディッシュ」で発信し、店内では同グループの活動を紹介するPOPを設置している。</p>			
結果と今後	○同メニューは3月31日まで提供される予定。4月以降も商品情報を提供するなどして継続的な取引となるようグループの活動を支援する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>ポータルサイトでの紹介</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ランチメニューの一皿 (前菜)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>シェフとの協議</p> </div> </div>				

標 題	新規就農者が選果作業の省力化を目指しAI 選果機を導入		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月13日	場所	松山市北条	
指導対象	新規就農者 (1人)	連携 機関	松山市	
普及指導 内容	<p>○松山市の新規就農者が、国の「経営発展支援事業」を活用し AI 選果機を導入したことから、選果状況等の確認と省力効果等について検証した。</p> <p>○本選果機は温州みかん及び中晩柑で利用でき、AI による5方向からの画像解析による等・階級別の自動選果が可能であり、選果作業の大幅な省力化や選果精度の均一化が期待される。</p>			
結果と今後	<p>○伊予柑における AI 選果機での選果作業は、従来の目視での選果に比べ50%程度の省力効果があり、技術の未熟な新規就農者でも経験不足を補完できる。</p> <p>○農家からの聞き取りでは導入経費は高いものの、「選果精度は高く長時間作業しても疲れにくい」「果皮が薄い高級果実も選別可能」など一定の効果があつたと考えられた。</p> <p>○今後、他品種での実用性や費用対効果、選果データの生産管理へのフィードバックの検討を行い、今後導入を希望する農家への指導の参考とする。</p> <p>○現在のところ、管内では同タイプの選果機が5台導入されている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：選果データをパソコン画面で確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：選果機ラインで等・階級を仕分け</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者プロジェクト活動発表会の開催を支援		機関名	中予地方局産地戦略推進室 地域農業育成室
年月日	令和6年3月8日	場所	中予地方局	
指導対象	松山地区青年農業者協議会員(20人)	連携機関	松山市、東温市、JA(松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○松山地区青年農業者連絡協議会が実施するプロジェクト活動発表会の開催を支援した。</p> <p>○地元農産物のPR、ハウスビニールの照度、防草シートの特性比較など、日頃の組織活動や生産技術の調査・研究成果を3人の会員が発表し、関係機関職員及び農業指導士6人が審査した。</p>			
結果と今後	<p>○審査の結果、米の食べ比べやフラワーアレンジメントのイベント等により、会員らが生産した農産物PRや地域住民との交流に取り組んだ、東温市青年農業者協議会が地区代表に選考された。</p> <p>○選考されたプロジェクト活動は、4月25日～26日に開催される第60回愛媛県若い農業経営者大会で発表する。</p>			
				<p>左：プロジェクト活動の成果を発表</p> <p>右：審査員との質疑応答</p>

標 題	なすの天敵昆虫を利用した環境にやさしい防除技術を確立		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月12日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	なす天敵利用技術検討会 構成員(17人)	連携機関	松山市、伊予市、東温市、松前町、砥部町、JA(松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○天敵昆虫を利用した環境にやさしい防除技術の確立を目指し、地方局予算「なす産地強化対策事業」(令和3～5年度)に係る、なす天敵利用技術検討会を開催した。</p> <p>○3か年の事業成果を報告するとともに、天敵利用マニュアルを活用した防除技術の普及など、今後の取組方針について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○天敵を利用した場合の防除回数は、施設栽培の慣行30回に対して12回、露地栽培の慣行23回に対して16回と減少し、薬剤散布経費は、施設の慣行約216千円に対して約95千円、露地の慣行196千円に対して171千円と低減できた。</p> <p>○天敵導入者は24人となり、天敵導入面積は約1.8haに増加している。</p> <p>○これまでの実証成果を取りまとめた「天敵利用マニュアル」(500部)を作成し、生産農家や関係機関に配布した。</p> <p>○今後は天敵利用マニュアルを活用し、さらなる普及を図るとともに栽培技術の向上や新規栽培者確保の取組みを一層推進し、なすの産地強化に努める。</p>			
				<p>左：天敵利用技術の確立に向けた活動成果を報告</p> <p>右：作成した天敵利用マニュアル</p>

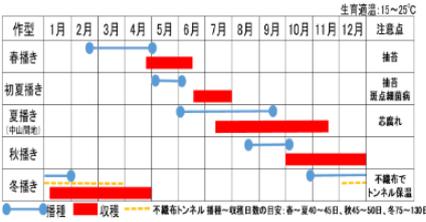
標 題	ユーカリ産地振興に向けた安定生産技術について協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月5日	場所	中予地方局	
指導対象	中予地域ユーカリ生産対策協議会 構成員(14人)	連携 機関	松山市、JA(松山市、えひめ中央)、 農林水産研究所	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユーカリの産地拡大を目指し、地方局予算「観賞用ユーカリ産地拡大事業」に係る第2回中予地域ユーカリ生産対策協議会を開催した。</li> <li>○今年度の技術実証成果として、樹形の検討、排水性改善による株枯症への抑制効果や新規候補4品種の試作及び販売した結果等を報告するとともに、関係機関で意見交換を行い、来年度の取組方針について協議した。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○樹形は、従来の一木仕立てより2、4本仕立てで品質が向上しており、収穫最盛期を迎える来年度も継続調査することとした。</li> <li>○アースオーガによる排水性改善対策を実施したところ、2年目の調査においても効果が継続していることを確認した。</li> <li>○新規品種候補の「グロブロス」は、日持ちが短く市場での品質が低下しやすいため、有望性は低いと判断し、残り3品種(パルブラ、アップルボックス、ポポラス)について調査を継続し選定していくこととした。</li> </ul>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>各種実証成果を報告</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アースオーガによる排水性改善</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新規候補4品種 (左上からパルブラ、アップルボックス、ポポラス、グロブロス)</p> </div> </div>				

標 題	「七折小梅産地再興支援事業」の取組成果を報告		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年3月19日	場所	砥部町七折地区	
指導対象	七折小梅生産安定プロジェクトチーム員他(9人)	連携 機関	砥部町、JA えひめ中央、果樹研究センター	
普及指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「七折小梅」の生産安定と産地の再興を図るため地方局予算「七折小梅産地再興支援事業」を実施しており、第3回プロジェクトチーム会議を開催し取組成果を報告した。</li> <li>○取組成果として、優良系統の選抜と改植の推進により安定生産への道筋を確立し、17ha中4haの改植が行われたことを報告した。</li> <li>○今後の産地維持に向け、低木仕立てモデル園を設置(7a)するとともに、軽労化対策として電動農機(チェンソーやせん定ハサミ)の利用を啓発した。</li> <li>○開花時期の早晚が花粉等の花器充実に影響し、不作につながることから、優良系統への更新が不可欠であることを説明した。</li> <li>○優良系統の竹内系統は着果率が安定し、安定生産性が優れていることを解明した。</li> </ul>			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も、優良系統への改植・補植を推進するとともに、引き続き関係機関が連携し、安定生産や軽労化に向けた取組みを支援する。</li> <li>○本事業は5年度で終了するが、当指導班では普及指導計画に位置付け、「七折小梅」の発展と地域農業の活性化に努める。</li> </ul>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：プロジェクトチーム会議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：梅の開花状況</p> </div> </div>				

標 題	沖縄の「田芋 <sup>タム</sup> 」を参考に「媛かぐや」の新規加工 需要について検討	機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	
年月日	令和6年3月25日	場所	松前町役場	
指導対象	媛かぐや産地育成推進会議メンバー (10人)	連携 機関	伊予市、松前町、砥部町、全農えひめ、 JA（松山市、えひめ中央）、農林水産 研究所	
普及指導 内容	<p>○地方局予算「媛かぐや産地育成事業」に係る第3回産地育成推進会議を開催し、沖縄県での先進加工事例の報告と試作した加工品の試食の他、次年度の生産・販売方針等について協議した。</p> <p>○沖縄県で生産されるサトイモの一種「田芋」についての調査結果を報告するとともに、「田芋」と「媛かぐや」を利用した芋あんまんやパウンドケーキを試食し、今後の利活用について意見交換を行った。</p> <p>○JA 系統販売における一次加工業者との流通体系を確立するためにも、安定的な生産量の確保が重要との認識を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○ペーストやスイーツ用等の高単価で供給できる販路への期待が高く、今後、一次加工業者等との連携を進める。</p> <p>○次年度は、5戸の生産者（うち新規2戸）及び集落営農組織等が約18a（本年4a）で栽培を計画している。</p> <p>○引き続き、安定生産に係る技術を検証・確立するとともに、円滑な流通加工体制を築き、水田農業の高収益モデル構築に努める。</p>			
				<p>左：今年度の取組結果を報告</p> <p>右：「田芋」「媛かぐや」を 利用して試作した加工品</p>

標 題	若手女性農業者の交流会を開催	機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班	
年月日	令和6年3月7日	場所	久万町民館	
指導対象	一次産業女子ネットワークさくらひめ 会員、女性農業者（5人）	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○新型コロナウイルスの影響により交流や関係性が希薄だった若手女性農業者や青年農業者の配偶者を対象に、コミュニティの形成を目的とした交流会を開催した。</p> <p>○会では、地域食材を利用した料理実習を通して交流を深めるとともに、「一次産業女子ネットワークさくらひめ」の紹介や事業の説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○お互い連絡先を交換するなど、交流会の目的が達成できた。</p> <p>○「えひめ農業女子確保支援事業」について説明を行ったところ、参加者からはグループ化に関する前向きな意見が出された。</p> <p>○本交流会をきっかけに、新たに1人が「一次産業女子ネットワークさくらひめ」に加入することとなった。</p>			
				<p>左：料理実習を通して交流</p> <p>右：さくらひめの活動を紹介</p>

標 題	「甘平」の実証試験結果について意見交換		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月11日	場所	中予地方局	
指導対象	JA 営農指導員、市町職員等 (16人)	連携機関	松山市、伊予市、JA (松山市、えひめ中央) 果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○「甘平」の連年安定生産技術の確立を図るため、第2回魅力ある中晩柑産地づくり会議を開催した。</p> <p>○今年度取り組んだ実証試験 (裂果と隔年結果対策) の成果を報告するとともに、得られた結果は報告書として取りまとめて配布し、情報共有を行った。</p> <p>○研究成果やJAから産地動向の報告もあり、今後の取組みについて意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○土壌改良とマルチ被覆により土壌の保水性が向上し、裂果が8%程度軽減し、また、大枝別と半樹別摘果法では慣行法と比較して、作業時間で約35%の省力化が図られた。</p> <p>○参加者からは、安定生産における適切なかん水量や着果量、樹づくり、次年度の実証試験案等について、活発な意見が出された。</p> <p>○本年産は夏秋期の高温干ばつにより生産量が減少し、市場からは安定生産を強く求められていることから、引き続き、関係機関と連携した安定生産技術の確立を図るとともに、「紅プリンセス」の実証も加え、中晩柑産地の発展を目指す。</p>			
				<p>左：中晩柑産地づくり会議 右：半樹別摘果の着果状況</p>

標 題	パクチーの周年安定出荷を目指して		機関名	中予地方局農業振興課 産地戦略推進室
年月日	令和6年3月7日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	パクチー生産者、JA 職員等 (19人)	連携機関	松山市、東温市、砥部町、JA えひめ中央、食品産業技術センター	
普及指導内容	<p>○地方局予算「パクチー周年安定生産体制確立事業」に係る第2回対策会議を開催し、当室から、夏季の芯腐れ症に対するカルシウム剤の葉面散布と初夏～秋播きでの標高別栽培方法、大阪市場でのPR活動等について報告した。</p> <p>○食品産業技術センターからは乾燥粉末加工と冷蔵保存方法、JAからは主な出荷先である大阪市場での販売状況や評価について報告され、意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「各作型の管理のポイントが理解できたので、自らの栽培環境と作業を見直し、より効率的に栽培したい」「格外品の乾燥加工で出荷ロスを少なくしたい」等、活発な意見が出された。</p> <p>○引き続き、生産者及び関係機関と連携しながら、中予産パクチーの安定出荷並びに認知度とブランド力の向上を推進していく。</p>			
				<p>左：栽培技術の説明 右：周年出荷に向けた作型表</p>
<p>・春播き、初夏播きでは、抽苔前の過期収穫に特に注意する          ・初夏播きは高雨時期と重なるため、排水対策と殺菌剤の予防散布を徹底する          ・夏播き作型の芯腐れ対策は、カルシウム剤を播種後1か月後(実数8毎期)より葉面散布(2回以上)する          ・冬播きは12月上旬から不織布でトンネル栽培とする          ・播種～収穫の積算温度は1100～1200℃</p>				

標 題	高級和菓子用びわの無袋栽培実証を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月11日	場所	宇和島市三浦	
指導対象	高級和菓子原料果実生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○びわ生産においては、果実の鳥害及び病虫害対策として袋掛けが必須であるが、脚立での作業時間も多いため生産者の負担が大きく、作業も遅れがちとなっている。</p> <p>○そこで、樹全体をネットで囲うことで、袋掛け作業と比較した省力効果や病虫害の発生等を確認する実証を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○加工用果実生産では、外観品質よりも省力的に栽培できることが重要であるため、費用対効果も含め、地域に適応できる技術を見極めることにしている。</p> <p>○他の樹種も含め、省力化につながる技術の実証や普及に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right; padding-right: 20px;"> <p>左：施設全体 写真</p> <p>右：施設内の びわ</p> </div> </div>				

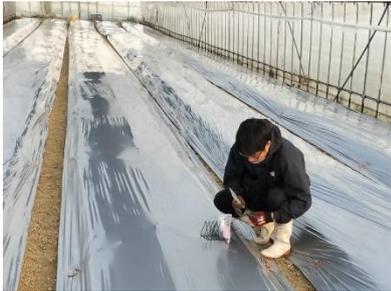
標 題	みかん学校開校に向けて研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年3月18日	場所	宇和島市	
指導対象	研修生候補者 5人	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	<p>○令和6年4月に開校予定の「JA えひめ南みかん学校」入校希望者に対して、関係機関とともに就農に向けた支援に取り組んでいる。</p> <p>○研修生候補者5名に対して、これまで個別面談等を実施してきたが、今回一堂に会した研修会を開催し、研修生の相互交流を図ったほか、国事業「就農準備資金」やIターン者のための市単独移住事業等を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○今回説明した事業の対象となる研修生には、事業申請時期に再度個別指導する他、対象外の研修生についても随時個別相談等を実施する予定。</p> <p>○令和6年度は、講師として技術指導や営農計画作成等を支援するとともに、宇和島市農業支援センターと連携して、研修生の円滑な就農を目指すこととしている。</p>			

標 題	野菜産地の担い手確保に向けた新たな研修体系を提案		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年3月4日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	—	連携機関	鬼北町及び松野町（役場、農業委員会、公社）、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当班は、町、農業公社、関係機関を横断した研修体系の構築に取り組んでおり、今年度新たに立ち上げた協議会を開催（第3回）し、研修を実効性のある内容とするため、研修計画作成の際に重要となる就農準備資金の活用について協議した。</p> <p>○研修項目を事業要件である研修時間 1,200 時間に含まれる「共通」、含まれないが鬼北町、松野町、JA の特徴が生かされ推奨する研修を「オプション」、その他指導班で実施する新技術等の研修を「その他」に区分した、総合的な研修計画を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、研修内容の具体化に合わせ、事業要件の研修時間に含まれるかを確認しつつ、研修計画の策定に取り組む。</p> <p>○次年度は、4～5月に協議会を開催して研修計画を確定させ、各町を横断した研修を試行的に実施する予定。</p>			
 <p>研修計画の協議</p>				

標 題	キウイ花粉の産地拡大に向けて低コスト省力栽培技術の実証ほを設置！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年3月7日	場所	北宇和郡松野町	
指導対象	松野町キウイフルーツ花粉事業組合	連携機関	松野町	
普及指導内容	<p>○同組合は、キウイ花粉産地の拡大を可能とする技術確立のため「低コスト省力栽培技術実証ほ（ハウス面積 10.4a）」を設置した。</p> <p>○ハウスは、小型かつ組み立てやすい構造で設計し、資材の削減と自主施工を可能とすることで低コスト化を図った。</p> <p>○また、花粉の収穫労力軽減を図るため、ハウスの内部構造を工夫し枝を下向きに誘引するTバー仕立てとしており、作業の省力効果についても検証する。</p>			
結果と今後	<p>○既存のハウス（令和2年導入）と比較して費用は約40%の削減となっており、今後は、収穫作業の軽労力化および成園化した際の収量の調査結果をもとに、技術の普及や新規栽培者の掘り起こしを進めていく。</p>			
  <p>左：生産者による自主施工の様子 右：Tバー仕立てが可能な小型ハウス</p>				

標 題	県かんきつオリジナル品種のせん定講習会		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年3月21日	場所	愛南町御荘平城	
指導対象	県かんきつオリジナル品種生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当班は、JA えひめ南と連携し、「甘平」「紅まどんな」「紅プリンセス」などの県オリジナル品種を栽培している生産者を対象にせん定講習会を開催した。</p> <p>○当日は、「甘平」と「紅プリンセス」の特徴を説明するとともに、成木のせん定と若木の仕立て方法について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは「自分の園地は主枝や亜主枝数が多かったことがよく分かった」「密植園なので、永久樹と縮伐樹を決めていきたい」といった意見が聞かれた。</p> <p>○今後も継続して県オリジナル品種の生産振興に努めていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>せん定の手順を説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「甘平」のせん定実践</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「紅プリンセス」の仕立て説明</p> </div> </div>				

標 題	スイス向け「河内晩柑」を出荷		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年3月22日	場所	愛南町	
指導対象	—	連携機関	食ブランドマーケティング課、愛南町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○EU 向け「河内晩柑」(mi sho)輸出に取り組む関係機関が協力し、収穫、選別、梱包作業を実施した。</p> <p>○今回の輸出先はスイスで、外観や大きさなど相手国のニーズに対応するため、樹別の収穫や果実選別を徹底、約4 tの準備が完了した。</p>			
結果と今後	<p>○今回、大量輸送を視野に船便での輸送試験を行うこととしており、温度変化状況や到着時の果実の様子などを確認する。同時に、輸送期間を合わせた国内低温貯蔵庫での仮想船便試験も行う予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>スイス向け果実収穫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>輸出用果実の目合わせ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>関係機関による選別作業</p> </div> </div>				

標 題	つるむらさきのセンチュウ害対策実証開始		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月18日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	つるむらさき生産者（2人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○近年、減収要因の一つとされるセンチュウ害への対策として、土壌消毒資材利用による被害軽減実証を開始した。</p> <p>○使用した資材は土壌中で気化し、高い殺センチュウ効果が見込める反面、土壌水分や地温等の状況によっては生育に影響を与える場合があるため、生産者や関係機関と共に土壌の状態を確認し、判断要素となる地温の測定を併せて実施した。</p>			
結果と今後	<p>○地温は積算温度が重要であるため、定植予定の4月下旬まで継続的に測定する。</p> <p>○今後は資材メーカー等と連携して処理前後のセンチュウ数の変化を調査し、生育状況と収量性を含む実証結果をまとめ、栽培指針への反映を検討する。</p>			
				<p>左：散布時は遮光で地温抑制</p> <p>右：被覆後に地温測定機器を設置</p>

標 題	若い力で地域の課題を解決		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年3月22日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西地区青年農業者協議会員(18人)	連携機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○青年農業者の課題解決能力や経営能力の向上を目的に、管内6支部の青年農業者協議会が今年度で取り組んだプロジェクト活動の発表会を開催した。</p> <p>○当室では、各支部に職員を配置し、プロジェクト課題の設定、調査研究の内容、結果の取りまとめや成果の波及等を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○鳥獣害対策に関するプロジェクトが多く、会員は八西地区が抱える共通の課題を認識するとともに、対策方法について共有が図れた。</p> <p>○今後も青年農業者の組織活動を支援しながら自立を促すとともに、早期の経営安定を図っていく。</p>			
				<p>左：プロジェクト発表する青年農業者</p> <p>右：令和5年度青年協役員</p>

標 題	大洲・内子いきいきネットワークの活動支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年3月7日	場所	大洲市内（川本いちご園ほか）	
指導対象	大洲・内子いきいきネットワーク会員（12人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○大洲市及び内子町の女性農業委員・農地利用最適化推進委員等で構成する「大洲・内子いきいきネットワーク」が、会員相互の経営概要や他組織活動への理解を深め、今後の活動に資することを目的とする研修会を開催した。</p> <p>○会員の経営概要では「川本いちご園」の観光農園経営事例、他組織活動では管内の一次産業女子グループ「ぷらいまりい」の活動事例を当班が報告するとともに研修会の運営支援を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加会員は、顧客ニーズの視点を取り入れた品種導入や自主企画夜市マルシェのイベント運営手法などを学び、今後の当ネットワーク活動の参考にしたいと意気込んでいた。</p> <p>○当班は、女性農業者が活躍し、地域農業をけん引する担い手へと育成するため、今後も組織活動支援を通じた資質向上を図るとともに、管内の若い女性農業者への呼びかけを進め、地域内ネットワークを立ち上げる計画である。</p>			
		 <p>川本氏による観光農園の説明</p>		

標 題	大洲きゅうり農家が IPM に取り組む		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年3月12日	場所	大洲市喜多	
指導対象	JA 愛媛たいききゅうり部会（6人）	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○管内野菜栽培で IPM（総合的病害虫管理）技術導入を推進している当班は、きゅうり退緑黄化病（ウイルス）を媒介するコナジラミ防除について、薬剤抵抗性発達の問題から天敵の導入を提案し、半促成栽培（2/13 定植）で実証に取り組んでいる。</p> <p>○リモニカスカブリダニとスワルスキーカブリダニの2種類の天敵を組み合わせ、コナジラミの発生密度が低いきゅうり生育初期から放飼することが、防除効果を最大限に高めるために有効であることなどを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○実証農家からは「思っていたよりも簡単」「カブリダニは小さく定着したかどうか確認できない」等の意見が聞かれた。</p> <p>○今後は、定期的コナジラミの発生状況を調査するとともに、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤の使用が想定されるため、防除体系を見直すこととしている。</p>			
		  <p>左：放飼ポイントを講習 右：きゅうりの葉に天敵を放飼</p>		

標 題	西予市農業を支える若き力、青年農業者組織が1年間の活動成果を報告		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年3月12日	場所	愛媛県歴史文化博物館	
指導対象	西予青年農業者連絡協議会員	連携機関	西予市 JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○西予青年農業者連絡協議会員の資質・課題解決能力の向上を図るため、市内の4青年農業者組織によるプロジェクト活動報告等の研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、当班が活動支援して取り組んだ鳥獣害対策による他地域との交流、かんきつの浮皮対策や出荷期間延長の実証成果等を報告し、今後の活動強化に向けた意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○農業指導士等の審査員は、「今、現場が抱えている課題を的確に取り上げている」「他地域への波及も含めた活動の広がり注目している」など、青年農業者の組織活動を高く評価していた。</p> <p>○当班は、今後も関係機関・団体と連携しながら、青年農業者組織の意欲的な活動を支援し、地域農業の活性化を図っていく。</p>			
 		<p>左：プロジェクト発表 右：審査員からの助言</p>		

標 題	保水材を用いて青ねぎの収量改善を検討		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年3月7日	場所	西予市野村町	
指導対象	(株) ノムランド	連携機関		
普及指導内容	<p>○当室で産地化を支援している西予市産青ねぎは、夏季の収量低下が課題となっている。</p> <p>○これまで(株) ノムランドにおいて液体保水材の定期的な施用による試験を実施し、夏季の収量の増加がみられている。関係者に普及を進めてきたが、1週間に1回のかん水作業の軽減がなければ導入が困難との意見があり、内子町の(株) フジファームで実証している省力的な栽培技術を検討することとなった。</p>			
結果と今後	<p>○3月上旬、育苗時の培土に保水材を混合することでかん水作業を省力化する栽培方法により収量の改善試験を開始した。</p> <p>○ねぎ栽培農家からは「効果があるのであれば導入を検討してみたい」との声が上がったことから、効果を見極めたうえで、普及と技術支援をしていく。</p>			
 		<p><b>【保水剤】</b> 水分を保持するはたらきをもつ資材で、砂漠化防止のための緑化等に使われている。環境にも配慮した生分解性の資材を用いている。</p>		
育苗資材への資材の混合		播種後の苗床		

標 題	高校生発案！「媛小春」を使ったマーマレード		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 地域農業育成室
年月日	令和6年3月15日	場所	県立三崎高校	
指導対象	—	連携機関	県立三崎高校	
普及指導内容	<p>○両室で、伊方町で収穫した果実の加工品利用を検討した結果、「媛小春」は知名度が低いため、若い感性を活かした若い世代にも受け入れられる加工品開発が必要との意見が出た。</p> <p>○そこで、地域と協働して町づくり活動等を積極的に行っている県立三崎高校に加工品開発の協力を依頼することとなった。</p>			
結果と今後	<p>○同校の教員や生徒（有志5名）は「媛小春」を知らなかったため、試食したところ「かんきつの概念を覆す甘さ」「これだけでスイーツ！」と食味の良さに感動していた。</p> <p>○「媛小春」がジューシーで加工が少し難しかったが、3種類のマーマレードが完成した。</p> <p>○今回作製したマーマレードは、第6回ダルメインWorldマーマレードアワードに出品を予定している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：町内産媛小春を使って作製</p> <p>右：完成したマーマレード</p> </div> </div>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543